

**堀内議員** 通告していたとおり、一般質問を行わせていただきます。自主財源の確保・コスト削減について。平成28年8月の財務状況ヒアリングによると、本町の財政状況は、「留意すべき状況にない」との評価でした。同時に、収入の多くを地方交付税が占めており、「人口ビジョン・総合戦略」を踏まえた持続可能な財政基盤の構築に取り組んでいくことで、安定した自主財源を確保していくことが望まれるとあります。そこで、自主財源確保・コスト削減に対する施策について伺います。ふるさと納税について、初年度に比べ、多少増加傾向にあります。2016年度の実績はどのような状態か。また、今後はポータルサイト「さとふる」を活用すると聞いていますが、来年度の目標額・お礼品の品数増加への対策はどのような計画でしょうか。新たな財源について、和歌山県有田川町は、徹底したゴミ分別により資源ゴミを売却、年間費用30,000千円が年間2,600千円の黒字化に成功しています。もちろん人口規模が違いますが、本町でも費用削減につながる可能性はあると考えます。通院補助やその他の補助制度を充実させるためへの新たな財源にはなり得ないでしょうか。人的コストの削減、財務状況ヒアリングでは、定員適正化に取り組む人件費を抑制してきたことなどから、行政経常収支が安定的に推移している。とありますが、運営効率に関して、いくつかの課題があると感じます。「会議資料のペーパーレス化」「害獣駆除の写真をメール送信」、この2点だけでも大幅な人的コスト削減につながり、職員の能力発揮やサービス向上につながるのではないのでしょうか。以上、質問させていただきます。

**枅富議長** 福井町長。

**福井町長** 堀内議員のご質問のうち、ふるさと納税については、担当課長からお答えいたしますので、私からはゴミ分別処理等による新たな財源確保と人的コストの削減についてお答えします。ゴミ処理の件ですが、昨年策定した海部郡衛生処理事務組合一般廃棄物処理基本計画によりますと、現在の海部郡の廃棄物からの資源回収率は、国の目標値の25%に対し10%であることから、一層の分別収集が必要な状況にあります。一方、人口一人当たりの年間処理経費は、徳島県の平均が15,242円に対し、海部郡では、過去5年間で13,896円

と、これを下回っています。国においては、平成25年5月に策定された『第3次循環型社会推進計画』により、これまで進めてきた、(リデュース・リユース・リサイクル)の3Rの取り組みから更に前進し、環境保全と廃棄物の有効活用による資源生産性の向上及び天然資源の消費抑制を図ることに着目した取り組みを進めようとしています。具体的に申し上げますと、一人当りのゴミの排出量は平成24年に対し、平成32年には12%削減し、再生利用率は27%にしようというものです。牟岐町では、平成26年度に比べ平成32年には、ごみの排出量を15%削減し、再生利用量を14%にすることとしています。海部郡3町で足並みを揃えることの困難さや、高齢化の進捗から国の目標値に近づけるのも非常に厳しいと考えています。リデュース・リユース・リサイクルの課題は、行政が主導し、町民の皆様のご協力をいただくことが重要で、3町で運営し、高齢化が進む中で、手間のかかる判断の難しい分別を如何にやっていただけるかが課題です。しかしながら今後は、上勝のゼロウエストの取り組み事例なども参考にしながら、できる限り、理想的なゴミ処理を推進していく必要があると思います。つぎに人的コストの削減についてですが、牟岐町としては、経常経費の削減のため、これまでも人員の削減、清掃、給食等の業務委託など人的コストの削減を行ってまいりました。今後とも経費の削減を、可能な限り積極的に進める必要があると認識しています。そこで議員ご提案の「会議資料のペーパーレス化」ですが、導入するには、タブレット等機器の導入経費が必要になりますが、メリットとしては、コピー用紙の削減、コピー機チャージ料削減、また、印刷に係る時間等も削減が可能となりますので、今後、検討してみたいと思います。議会においても、議案書や予算書を電子化しタブレット端末により議会を進めている市町村もありますので、今後、協議してまいりたいと思います。つぎに「有害鳥獣駆除の写真のメール送信」についてですが、現在、駆除報奨金を支払うにあたり、職員が1頭1頭、実物の確認を行っており、職員が現場に赴くために多くの時間を割いています。今後、議員ご提案の確認方法について、猟友会の皆様と協議の上、可能であれば早期に実施したいと思います。

**枅富議長** 宮内総務課長。

**宮内総務課長** 私からは、堀内議員のふるさと納税についてお答えさせていただきます。まず、ふるさと納税の今年度の実績ですが、年度途中になります。が、本年2月末現在で寄付金額が1,167千円で、寄付件数は29件です。なお1件当たりの寄附の平均は、40,241円です。現時点では前年度に比べると、大口の寄附金が減ったため寄附金額は減少していますが、寄附の件数

は増えている状況です。つぎに来年度の目標額、返礼品の品数増加への対策についてですが、まず目標額については、寄付金のため、こちらの思い通りにはいかないと思われませんが、まずは前年度の倍以上はクリアすることを目指したい。そのためには返礼品の充実が不可欠であると考えています。商工会等の会議に出席するなどして、返礼品の提案を引き続きお願いするなど、現在、機会があるごとに返礼品の提案をお願いしているところです。以上です。

**枅富議長** 木田住民福祉課長。

**木田住民福祉課長** 私からは、堀内議員の2項目の新たな財源についてのご質問について、町長の答弁の補足説明をさせていただきます。現状としまして、資源ごみ収集は、牟岐町は民間業者に委託し、海部郡衛生処理事務組合に搬入しています。海部郡衛生処理事務組合は、海部郡内3町から搬入された資源ゴミを入札等によりまして、売却し再資源化をしています。売却額は、平成27年度決算で、4,041,117円であり、海部郡衛生処理事務組合の管理、運営経費に充当されています。以上です。

**枅富議長** 堀内議員。

**堀内議員** 答弁ありがとうございます。ふるさと納税については、ぜひ進めたいと思います。品数増加がやはりネックになってくるかと思imasので、以前にも申し上げましたが、宿泊のチケットだったりとか観光ガイドのチケットだったりとか、柔軟に対応していただければ、おもしろい返礼品ができるかと思imasので、よろしくお願imasします。ペーパーレス化については、仕事の量も減ると思imasので、できるだけ前向きに検討していただければと思imas。新たな財源、ゴミにつきましても、なかなか分別を厳しくやっってくださいというのは、町民の方に言いにくいところですけど、必ず全国的にも分別はきっちりしていくような流れになっていますので、牟岐町が率先してできれば素晴らしいかと思imas。以上、要望として質問を終わらせていただきます。